

ラーメンを通して日本を伝える海外事業 アジア展開の拠点はシンガポールに

株式会社 力の源カンパニー

代表取締役社長

河原 成美 氏

人気ラーメン店「一風堂」を展開する力の源カンパニー。海外への事業展開にも旺盛に取り組み、昨年12月にはシンガポールに出店。今年7月には2号店もオープンしました。同社の河原社長に、シンガポールで飲食事業を展開する狙い、事業展開の可能性について伺いました。



海外市場に日本のかっこよさを伝える

海外展開を進めるのには、いくつかの理由があります。まず日本のラーメンは世界中で愛されるメニューであると確信し、一風堂がそのスタンダードになりたい、と考えたからです。「ラーメンを世界共通語に」が、海外展開の最大の目的です。また、ラーメンを通して、「日本のかっこよさを世界に伝えていきたい」という思いも原動力になっています。料理のクオリティ、店づくりにおける感性、「おもてなしの心」や「一期一会」の精神を背景にした接客サービス、職人の威勢の良さと矜持などです。日本の素晴らしさを海外の方に伝えていく過程において、私たち自身が日本の魅力や美点を再発見していくことも大きなメリットだと考えています。

また、国内の飲食産業が縮小傾向にある中で、海外にはまだまだ大きなマーケットがあると考えています。日本食への関心は高まる傾向にありますが、海外では日本人経営のレストランが多くないのが実情です。本当の日本食と日本人の素晴らしさを提案していけば、事業の成功可能性は高いと考えています。

海外での経験を国内の事業にフィードバックさせる狙いもあります。たとえば商品は現地の状況に合わせてアレンジしますが、その過程で多くの新メニューが生まれます。外国人スタッフから、その国の文化を吸収することもできます。それらを日本の事業にタイムリーに反映させていきたいと考えています。

シンガポールはトップレベルの価値観を持つ市場

海外展開において、アジア地区はとても重要だと考えています。麺文化が根付いているエリアですし、嗜好も私たち日本人に近い。また、多くの国が経済発展を続けています。そのアジア地区の中で、一風堂の価値を最も認めてもらえる国は、シンガポールだと判断しました。シンガポールは早くから経済発展を遂げていますし、高度な商品やサービスを体験しています。厳しい目を持っている反面で、価値の高いものには正当な判断を下してくれると考えています。私たちはまず、アジアの中でもトップレベルの価値観を

持ったシンガポールの人々に、一風堂の実力を認めてほしい、と考えました。

また、法律が行き届き、治安がよく、食材が豊富で、外国人、外国企業に対してオープンで寛容である点も大きな魅力となりました。

シンガポール店は地域にとけ込み、好調を持続

おかげさまで昨年12月にオープンしたシンガポール1号店(オーチャード通りにあるホテル「メリタス・マンダリン」内)は開店以来、好調を持続しており、現在もなお連日行列ができる状況です。一風堂はニューヨークに引き続きシンガポールでも、地域にとけ込み、みなさまに支えていただける存在になりました。

2号店のオープン時に開催したオープニングレセプションには、メディア関係者約300人が参加。「まったく新しいタイプのレストラン。日本の伝統を現代的にクールに演出していて興味深い」(現地の雑誌記者)、「ラーメンという食を通して、日本の文化について、もっと知りたくなった」(テレビディレクター)といった感想をいただいています。

シンガポールのみなさまに受け入れてもらったことは、大変光栄に思っています。

シンガポールをアジア展開の拠点に

シンガポールではすでに工場を開設していますが、これはアジア展開の拠点としたい、という意志の現れです。今後の出店の状況に応じて、工場の規模を拡大していく計画です。一風堂はシンガポールに軸足を置いて、アジア全体に伸びていく、というイメージです。

シンガポールは、高い経済成長を続けている、世界的にも希有な「元気な国」です。これは「積極的な外資・外国人の誘致策」や「市場開放」によるところが大きいと思います。また、法人税率や所得税・相続税が低いことや、先端技術産業や金融の誘致に積極的な点などからも、投資先としてとても魅力的な国だと考えています。今後、ますます日本企業の進出が盛んになると予想しています。